

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 200号

平成30年12月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (12)

12月2日

人生の道は、見通しがききません。道は曲がりくねり、その先がどうなっているかは、心で予想だにできないのです。

私はこう思います。最善の方法は、とにかく思慮深く、祈り深く、慈愛深く、一步一步着実に歩むことであると。

1 思慮深さ

これは心遣いのことです。というのは、人が生きるのはパンのみによるのではないからです。そして、自分を力づける思い出や、先の見通しや確信は、大きな味方であって、それらによって私たちは励まされ保護されるのです。

2 祈り深さ

これは霊的洞察力を鮮明に保つことです。というのは、最も偉大な事柄や、私たちにとって最良の状態は、主がすべてを計画された

ものであって、その大半が間もなく現実になるという、まだ実現途上の目的の内に、私たちが置かれているということを知ることです。

3 愛情深さ

これは、旅の途中で挫折してしまった時や人生を終えようとする晩年、祈ることに精魂尽き果ててしまった時や、気持ちが落ち込んで、めいつている時のために必要です。愛は、決して裏切りません。いずれにせよ、愛は海図として、また旅の手がかりとして、また預言者としても、常に信仰を支えるのです。

道は寂しく、曲がりくねっている

さあ、心よ

愛はすべてのものを新しくするのだ

足が疲れて、引きずっている時

さあ、心よ

目的地は、きっと視界に入って来るはずだ

私は、我が道を見る

鳥たちがその道なき道を見るように

でも、主は私をも、鳥たちと同様に

導いて下さる方なのだ

12月4日

そして、あなたがたのうちに良いわざを始められた方が、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるに違いないと確信している。(ピリピ1・6)

幼い子供が、おもちゃのボートを作ろうと熱中していました。一日中、その子は懸命に働きました。夜になるまでに、何とかそのボートを完成したかったのです。しかし、その子はボートが完成できませんでした。彼は、がっかりしてベッドに入りました。父は家に帰って、子供の作りかけのボートを見つけ、そのボートを完成させてやりました。

次の朝、その子はベッドから降りてきて、ボートが全部出来上がっているのを見て言いました。「僕は、きっと天使たちが僕の寝ている間に来て、完成させてくれたんだと思うな」。

年月が流れるのがあまりにも早いので、私たちは夜までにやり終えることがほとんどない。

事を終わらせることは、たいして重要なことではない。というのは、私たちの小さなことの終わりは、もっと大きなことの始まりだからだ。

12月7日

しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。(ヘブル11・16)

私が日没を見ている時、その彼方にはもう一つの国があるのです。私はまだその国を見たことはありません。また私は、そこに住んでいたという人をだれも知りません。しかしその国は、私が知っているどんな国々よりも、もっと確かな実在性があります。

この国は日没の彼方にあります。この不死の国、この清く祝福された魂の故郷。

なぜなら、この私たちの天国は、絶対普遍不動、確実なものであることを私は知っているのです。何の疑いもなく、このことを知っています。…

そして真昼の太陽が傾きかける時、信仰はもっと明るく輝くのです。そして希望は、その声をもっと高い調子のものとさせ、完成の歌をうたわせます。私の仕事はもう終わりに近づきました。…そのどれをも、私はもっと上手にできたかもしれません。でも私は、もうやってしまったのです。そして来るべき御国では、もっと良い材料を使い、もっと良い作業用ランプで、私はよりよい働きをすることが出来るでしょう。

12月8日

主はあなたを守る者、主はあなたの右の手をおおう陰である。(詩篇 121・5)

最もいつくしみ深いことは

神が素晴らしいやしの御手を

こんな焼けついた世界の上に置こうとさえして下さったこと

それが陰なのです…

もう、この疲れる旅も半ばを過ぎました

木陰に入って休みましょう

疲れ切った友よ

さあ、足をぬらして

したたり落ちる水滴の冷たさに、浸しなさい

忘れましょう、

焼けつく街道での足の痛みやいらだちを

これが神のもてなしです

だから木陰に憩う者たちは誰でも

心から神に感謝するのです

T・ハリソン

私の雲とは何だろう。それは結局の所、やさしく差し伸べられた

神の御手の陰である。

12月9日

あなたは高齢に達して墓に入る、
あたかも麦束をその季節になって
打ち場に運び上げるようになるであろう。(ヨブ 5・26)

疲れ果てた旅人よ

前に向かって進むのだ

目的地を目指して前進するのだ

さあ、希望の星を輝かそう

あなたのいくじのない魂に火をともしのだ

夜の暗いとぼりが降りようとしているけれども

あなたのまわりにも、暗闇と陰うつが忍び寄っているけれども

あなたは信仰をもって前進するのだ

さあ、前に進むのだ！

決して恐れるな！

12月13日

わたしは常に主を誉めまつる。(詩篇 34・1)

目を覚まして、感謝の内に祈り、ひたすら祈り続けなさい。

(コロサイ 4・2)

神の宝物庫に至る、あらゆる扉を開けることのできる一対の鍵があります。その鍵とは「賛美」と「祈り」です。この鍵は、天国の窓を開き、天から恵みの雨を降らせるのです。おお、賛美と祈りの力はなんとすばらしいものでしょう！それは、あらゆる牢屋の扉を開けることができ、捕われ人たちを自由にすることが出来ます。かって、ペテロとパウロとシラスが、この鍵を用いたように、私たちも、どんなところに閉じ込められようとも、この鍵を用いて、彼らと同じようにすることが出来るのです。

サタンによって歌うことを妨げられた心配性のクリスチャンよりも、あわれな捕虜はいません。たとえ、魂が真夜中の牢に閉じ込められていても、賛美の歌と祈りの声が、牢屋を開けることでしょう。

生来の人には、「何も思い煩わないで、むしろ、あらゆることに感謝をもって、祈りと願いをする」ということは、不可能な命令に聞こえるかもしれません。しかしクリスチャンは超自然的なものとかかわっているのです。神の配慮——神の愛を理解してからは、すべてが安全である。すべてが完全に安全である。

12月16日

勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう。彼は決して2度と外へ出ることはない。そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。

(黙示録3・12)

日は、西の空にゆっくりと暮れている

日没の輝きは色あせて

今は青白く、寒々しい

はるかな山頂は、日の出を待ちわびている

喜々として

山羊の群れを飼う者は、山羊の群れを囲いの中に招き入れている

我が疲れた魂よ

喜びがさまよい歩くのをやめさせる

慰めを得なさい

夕暮れは、あらゆるものを

うちに連れてこさせる

うちに向かって、かもめが群をなして飛んでいく

軽やかな翼を広げて

ひき潮は、砂浜に静かに打ちつけている

赤い帆をした船が

夜に備えて、岸の方に引き寄せてある

夜のとばりは、海と陸の上に

深まっていく

我が魂よ、静まりなさい

主の時が訪れようとしているから

見よ、ある夕暮れに

神は、あなたをうちに導かれるのだ

夕暮れは、私たちが父の家路へと導く。

12月17日

わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時は来た。(テモテⅡ4・6)

人生の砂浜をほとんど走り終わってしまった時、すなわち、人生の最も輝かしい日々が終わりに近づき、時間のたそがれが永遠のたそがれの中に溶け入るとき、神の栄光が、永遠の夏の真昼のように輝きを増し加えます。その時、ヴィクトリア時代の詩人と共に、あなたは次のように歌うことが出来るでしょう。

日没、そしてたそがれの星

だれかが、私を呼ぶ声が聞こえる

私が海へ出た時

防波堤には、何のうめきもない

そんな潮の流れは

泡と波音のわりには、動きが緩慢だ

潮が、計り知れない深みから

引き寄せてくる満潮は

また、帰っていく

たそがれ、そして宵の鐘

その後には、ただ一面の暗闇

私が船出するときには、

別れの悲しみなんか、あるわけがない

というのは……

船出するということは

私たちの住みなれた時と場から離れることだけど

満潮は、遠くへと、私を運んでくれる

私は、私の水先案内人を

面と向かってみたいのだ

私が防波堤を通り過ぎる時に

巡礼者は、日の出が見える東に面した大きな 2 階の部屋を手に入
れる。その部屋の名は「平安」である。

(注) ここに出ている詩は、イギリスの桂冠詩人テニスン(1809－1892)の
Crossing the Bar(砂州をよこぎって)だと思います。元の詩を掲げます。

CROSSING THE BAR

Alfred Tennyson

Sunset and evening star,

And one clear call for me!

And may there no moaning of the bar,

When I put out to sea,

But such a tide as moving seems asleep,

Too full for sound and foam,

When that which drew from out the boundless deep

Turns again home.

Twilight and evening bell,
And after that the dark!
And may there be no sadness of farewell,
When I embark;

For tho'from out our bourne of time and place
The flood may bear me far,
I hope to see my pilot face to face
When I have crost the bar.

12月25日

今日、ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである。(ルカ2・11)

クリスチャンの精神は、一年中を通して脈打っているクリスマスの精神です。

それは、あらゆる人々に対する一つの態度であり、あらゆる行動のもとになる原理です。

今宵、

あらゆる心がクリスマスを守るにふさわしく、整えたまえ

キリストの悲しみへのいつくしみ

キリストの罪への憎しみ

キリストの最も小さき者への顧み

キリストの正義への勇気

キリストの闇への恐れ

キリストの光への愛

今夜はクリスマスだ！

あらゆる地、いかなる地においても！

12月30日

わたしが年老いた時、わたしを見離さないでください。わたしが
力衰えた時、わたしを見捨てないでください。(詩篇 71・9)

年月では、人の年齢は測れません。

私たちは年を取るにつれて、もっと落ち着いて来るべきです。若い時よりも幸福でないと感じつつも、人生とは何かを以前よりずっと良く知ることが出来るのです。もう一つの世界が現実になることが期待できます。もちろん、その世界がどんな世界か正確に表現することはできないけれど。

若さとは何かと私に語った人々は

もう逝ってしまった

それと共に

私の人生の力強さも去ってしまった

何も残っていない

あるのは衰えだけだ

あるのは老いと朽ち果てたすがただけだ

否！そうだ！

私は、神の幼な子だ

まだ生きるのが始まったばかりだ

我が最良の年がやって来るのだ

わが人生の力強さがやって来るのだ

神の幻が与えられるのだ

わが人生の盛りと力がやって来たのだ

老いを最善の時とせよ！ 悪しきものの最善の時間が最善なのではない。あなたの人生にとって、今は最善の時だ。なぜなら老いは、人生の最後に位置するからだ。

私と共に、老いていこう。あなたにとっての最善は、これから始まる。